


特定非営利活動法人 日本免疫学会
 2019 年度 後期 **Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**
 研究発表報告書

申請者氏名	小林大地	会員番号	0034986	
申請者の所属・職名	和歌山県立医科大学薬理学講座・特別研究員			
出席会議名	17th International of Congress of Immunology			
発表論文タイトル	Efferocytosis mediated anti-inflammatory responses are restricted at the site of peripheral nerve injury.			

実施結果:

この度は 2019 年度後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award に選出していただき、誠にありがとうございました。岸本忠三先生をはじめとした選考委員の先生方ならびに推薦して下さった宮坂昌之先生に厚く御礼申し上げます。また、本研究を実施するにあたり、ご指導・ご協力頂いた岸岡史郎先生、松崎伸介先生、木口倫一先生、雑賀史浩先生に感謝申し上げます。

私は 2019 年 10 月 18 日から 23 日に中国の北京で開催された 17 th International of Congress of Immunology (IUIS2019) に参加してきました。本学会は International Union of Immunological Societies による主催の基、世界中の免疫学研究者が集まり、免疫学の最新知見を報告する会議です。今回の IUIS は予想を上回る過去最大規模の人数が参加し、大成功に終わりました。

私は、”Efferocytosis mediated anti-inflammatory responses are restricted at the site of peripheral nerve injury” というタイトルで、最近明らかにした末梢神経傷害部位で生じる慢性炎症に着目した内容について報告しました。交通事故などにより生じる末梢神経の傷害は慢性炎症を引き起こし、神経障害性疼痛の原因になることが知られています。神経障害性疼痛は従来の鎮痛薬では十分な治療効果が得られず、新規の治療法の開発が求められています。しかしながら、そもそも末梢神経の傷害により、何故慢性炎症が生じるのかはほとんど明らかにされていません。私は末梢神経で生じる傷害が慢性炎症を誘引するメカニズムの一旦を明らかにすることを目的に、研究を進めて参りました。その結果、①神経傷害部位では抗炎症や組織修復に関わる M2-like macrophage が集積し、②通常の炎症部位で見られる現象と同様に、M2-like macrophage は神経傷害部で集積した死細胞の貪食 (efferocytosis) を担っているが、③ efferocytosis による死細胞の除去が不十分のため、④末梢神経傷害部位において炎症が慢性化することを見出し、報告しました。今回、私の発表を多くの研究者が訪れて、公聴してくれました。その中でも、私と同様に免疫学と痛みの関係を研究されている Northwestern University の Praveen Thumbikat 先生にコメントを頂き、今後の研究方針を考える良いきっかけとなりました。また、学会では様々な国の先生方とお話させて頂く機会や助けて頂いた機会があり、大変良好な関係を築くことができました。

最後になりましたが、このような貴重な体験をさせていただいたことに深く感謝いたします。今後も、免疫学の発展に少しでも貢献できるように努めて参ります。

注) 本参加記は手書きでなく、ワープロを使用して作成してください。